

中国自動車流通の多様化とグローバル化

～国際比較流通の視点から～

M051668 楊 歆 歆

1. 研究の課題と方法

中国の自動車流通においては、多種多様な自動車流通システムがみられる。本研究の目的は、中国自動車流通の多様性の解明にあり、また、発展途上国、つまり、中国発のグローバル自動車流通システムの提示を本研究は目指している。

まず、先行研究のレビューをし、本研究の分析枠組を設定する。次に、自動車流通比較の代表的な研究者である塩地の論点を批判する。さらに、中国自動車流通を3つの視点（中国の自動車政策、消費者特性、情報化）から分析し、中国発のグローバル自動車流通システムや中国自動車流通の今後の発展の方向について考査する。

2. 先行研究のレビュー

2-1 国際比較流通の方法に関する先行研究のレビュー

田島・宮下や阿部・村上によると、国際比較流通においては各国の歴史や制度、文化などの相違性や独自性を強調すべきであるとともに、消費者の視点から比較することも重要だとしている。

2-2 自動車流通の国際比較に関する先行研究のレビュー

(1) ディーラー・システム

ディーラーは自動車メーカーとは別の独立した経営主体である一方で、自動車メーカーのコントロールを受けるといふ相矛盾した性格を持つ自動車販売店を意味している。

(2) アメリカのフランチャイズ関係

近年、アメリカでは外資資本の参入によるメガ・ディーラーの出現やメーカーによる流通網の再編が進んでいる。

(3) 日本の系列関係

日本のメーカーとディーラー間において、いわゆる系列関係が存在している。

2-3 まとめ分析枠組の設定

従来の国際比較流通の分析では、国の政策や文化、また消費者特性が重要だと指摘している。しかし、塩地においては、分析視点や中国自動車流通市場の多様性についての指摘には問題がある。

3. 中国自動車流通の現状と評価

現在、中国自動車流通が多種多様になった原因は、計画経済期と市場経済期、それぞれ両者のものが混在しており、また、流通企業も売り手市場であった時代に、過大・過多に参入したからだと考えられる。しかし、塩地では、中国自動車流通の多種多様化は、アメリカが辿ってきた発展段階が圧縮され、オーバーラップしているとした。本研究においては、本来の国際比較流通の方法を用いて、塩地と違う視点から、中国自動車流通の多様性を分析したいと思う。

4. 中国自動車政策と中国自動車流通の多様性

4-1 中国自動車政策の変遷

中央政府は、メーカー主導型と小売主導型という相対立する自動車流通システムを同時に試行し、地方政府は、中央政府の政策とは別に小売主導型自動車流通システムを試行した。

4-2 中国自動車流通の多様性

(1) 3S店・4S店

中国ではディーラーという言葉を使う代わりに、3S店・4S店という言葉を使う。

(2) 自動車販売連鎖店

政府の支持のもとで設立され、現在は中国最大の複数ブランド自動車販売連鎖店を運営する企業となった。

(3) 自動車交易市场

自動車交易市场とは、多くの自動車販売業者が一カ所に集まって自動車販売の集積を形成し、自動車の自由市場のようなものである。

4-3 まとめ

中央政府内における政策の不整合とともに、中央政府と地方政府間における政策の不整合が存在しているからこそ、今の中国の自動車流通システムが多様化したと言える。

5. 中国消費者の特性と中国自動車流通

中国では都市と農村、沿海と内陸といった収入階層間の格差が拡大し、異なる消費市場が形成された。3S店・4S店は都市部の富裕層、自動車交易市场や自動車販売連鎖店は、経済性を重視する消費者のニーズに応えられるので、多様性が存続できたといえる。したがって、中国自動車流通システムの発展と存続ができたのは中国消費者特性と非常に関連していると考えられる。

6. 中国情報化の進展と中国自動車流通

自動車電子商取引は顧客にとって一番いい流通システムであるべきであったが、現在のメーカー主導型のディーラー・システムに崩すところまでには至っていない。現存の中国の自動車電子商取引も結局、仲介役の役割しか果たせていないのである。したがって、自動車電子商取引は新たな一つの自動車販売方法として、多様化していく可能性があるとしても、流通経路を多様化させることはないと考えられる。

7. 結論と展望

中国自動車流通の多様化は中国自動車流通政策によってもたらされ、中国消費者の特性によって維持された。このことが、先進国モデルで説明することはできない。つまり、多様化そのものが、中国自動車流通なのであり、途上国モデルなのである。

また、最近、自動車城という新たな自動車販売方式が中国に現れた。要するに、3S店・4S店の販売・サービス機能と交易市场の一覧性が顧客に提供されるのである。それはまさに中国発のグローバル自動車流通システムとなりうる。